



2023年10月31日

各位

長野県北安曇郡白馬村大字北城 6329 番地 1
会社名 日本スキー場開発株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 鈴木 周平
(コード番号: 6040 東証グロース)
問合せ先 管理本部長 佐藤 祥太郎
電話番号 0261-72-6040

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月27日及び2022年10月27日にグロース市場の上場維持基準への適合に向けた計画（以下、計画書）を提出し、その内容について開示しております。2023年7月時点における計画の進捗状況等について、下記のとおり作成いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の2023年7月時点におけるグロース市場の上場維持基準への適合状況は、「流通株式比率」のみ基準を充たしておりません。当社は、2025年7月までに上場維持基準を充たせるように引き続き各種取組を進めてまいります。

		流通株式数	流通株式時価 総額	流通株式比率	時価総額
当社の適合 状況および その推移	2021年7月末時点	35,050単位	23億円	21.9%	—
	2022年7月末時点	34,292単位	23億円	21.4%	—
	2023年7月末時点	36,733単位	36億円	22.9%	—
上場維持基準		1,000単位	5億円	25%	40億円
計画書に記載の項目		—	—	○	—
計画期間		—	—	2025年7月末まで	—

※当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価(2022年8月～2023年7月)

当社は、2023年9月11日に開示しました「2023年7月期 決算説明資料」にありますとおり、2026年7月期までにウィンターシーズン来場者数190万人、グリーンシーズン来場者数65.5万人、連結売上高88億円、連結営業利益20億円を達成することを中期経営計画としております。流通株式比率を向上させる基本方針としては、これを達成し企業価値を向上させていくことで、株価水準や出来高等当社株式の取引をより行いやすい環境を

醸成し、課題である当社株式の保有比率の高い親会社（日本駐車場開発株式会社）や事業法人等の大株主に対して上場維持基準適合に向けた働きかけを行い、所有される当社株式の縮減を進めて頂くこととしております。

当社の業績は、2023年7月期において、コロナの収束による行動制限の緩和やインバウンド来場の再開、また、キッズプログラム等国内需要創出に向けた取り組みが来場者数増加に寄与し、過去最高の売上高及び利益を達成するとともに、中期経営計画も上方修正しております。

これらの影響もあって、直近の2023年9月1日から10月26日の日次平均売買代金は110.4百万円(前年30.1百万円、前年比366.3%)まで増加し、同様に同期間の平均時価総額についても171億円(前年124億円、前年比137.0%)となり、取引を行いやすい環境はより高まってきていると認識しております。

3. 上場維持基準に適合していない項目ごとのこれまでの状況を踏まえた今後の課題と取組内容

当社は、現状「流通株式比率」のみ基準を充たしておりません。課題解決には当初の計画のとおり企業価値向上により株価の上昇およびその安定化を図ることが重要であると認識しております。2022年7月末時点の流通株式比率は21.4%でありましたが、前期中に一部の事業法人との当社株式の縮減に係るやり取りもあり、2023年7月末時点の流通株式比率は22.9%と前年から1.5ポイント改善しておりますが、引き続き、企業価値向上に向けて中期計画を着実に実行するとともに、継続的に親会社や事業法人等の大株主に対して、流動化に向けた働きかけを行ってまいります。また、当社は自己株式を保有（2023年7末日時点で5.22%）しておりますので、グループリゾートの索道施設等の更新時や、M&Aや資本提携といった外部との連携時に戦略的にそれを活用することで、複合的に流通株式比率の向上に取り組んでまいります。

(1) 当社の業績及び中期計画

(単位：百万円)

	22年7月期	23年7月期	24年7月期(予)	25年7月期(予)	26年7月期(予)
売上高	5,569	6,898	7,500	8,200	8,800
営業利益	254	1,036	1,350	1,700	2,000
ウィンター期 来場者数	1,303千人	1,515千人	1,641千人	1,800千人	1,900千人
グリーン期 来場者数	451千人	583千人	584千人	630千人	655千人

(2) 計画の実行に向けた主な取り組み

(i) ウィンターシーズン

- ①インバウンド（アジアに向けての取り組み強化、白馬エリア以外のインバウンド営業強化）
- ②小雪対策投資（ウィンターシーズンのスタート早期化、オープンゲレンデ面積の拡大スピード向上）
- ③サービス強化・差別化（ファーストトラックやゲレンデ内パウダーエリアの整備、ゴンドラ・リフト等のリニューアル）
- ④NSDキッズプログラムの推進、ノンスキーヤーでも楽しめるリゾートづくり

(ii) グリーンシーズン

- ①竜王・八方・梅池の来場者数10万人の回復
- ②索道を稼働しないリゾートでのベースエリア事業の強化

(iii) 外的成長・開発事業

①NSDアライアンスを含め、コンサルティングや業務支援先の拡大

②宿泊・開発事業の本格化

※詳細は本日2023年10月31日に開示しました「事業計画及び成長可能性に関する事項」をご参照ください。

以上